

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣
帰国報告（2012年4月3日提出）

1. 派遣生の基本情報

氏名：佐藤雄基（さとうゆうき）
所属：東京大学史料編纂所国内研究員室（日本学術振興会特別研究員 PD）
派遣形態：平成 23 年度夏学期個人派遣 PD

2. 研究課題名

アメリカにおける日本研究の学史的調査 - 第二次世界大戦前を中心に

3. 派遣先での活動

(1) 派遣先の基本情報

国：アメリカ合衆国、都市：ホノルル
研究機関：ハワイ大学マノア校 歴史学部
コンタクトした主な研究者名：ウィリアム・ウェイン・ファリス教授（歴史学部）

(2) 派遣期間

出発日：2012年1月15日、帰国日：2012年3月21日、総日数：67日間

4. 主な研究成果

(1) 当初の計画の概要

これまでに派遣者は、草創期の英語圏における日本史研究とそれをめぐる国際的な学術交流の様相について、朝河貫一（1873 - 1948）の比較封建制論の再検討を通じて史学史的な研究を進めてきた。今回の派遣では、日本研究全体の中での歴史研究および朝河貫一の位置づけを検討するために、第二次世界大戦以前に遡ってアメリカの日本研究・日米学術交流に関する学史的調査を行う予定である。

(2) 実際に達成された成果

今回の成果は次の四点にまとめられる。

第一に、ハワイ大学マノア校歴史学部にて客員研究員として滞在し、受入教員のウィリアム・ウェイン・ファリス教授（日本古代中世史）の助言を得つつ、日本史研究に関する英語文献の系統的収集・調査を行うことができた。これによって朝河貫一以降の英語圏の日本史研究の状況を把握できた点は成果である。また、日本史専攻の教員・院生らと世界史教育や比較史の方法などについて議論する機会を得た。

第二に、同大のロースクールにおいて、日本法の専門家であるマーク・レヴィン教授に会うとともに、ロースクール図書館で文献調査を行い、アメリカの日本法研究における歴史（法史）的関心のあり方について調査を行った。海外における日本法史像と朝河貫一の比較封建制論の関係を考えることができたのは、貴重な機会であった。

第三に、同大のハミルトン図書館において、日本図書専門司書のバゼル山本登紀子氏に会い、日本語図書コレクションの状況について情報収集を行うとともに、同図書館所蔵の「宝玲文庫」の調査を行った。「宝玲文庫」はフランク・ホーレー(1906-1961)の収集した琉球・沖縄関係文献を同大が購入したものであり、17世紀以降の貴重な古文書・古文書を含んでおり、全米有数の在外日本古典籍コレクションである。その購入の中心となった坂巻駿三(1906-1973)は、戦前から同大で教鞭をとっていた日本史・琉球史研究者である。同図書館では坂巻関係資料の調査を行い、ハワイ大における戦前戦後の日本研究に関する知見を得た。

第四に、同大の日本研究センターにおいて、歴史学以外の日本研究の状況について情報収集を行った。ハワイ大学の日本文化研究センターは、1920年に原田助(1863-1940)を招聘して設立され、アメリカにおける日本研究の拠点の一つとなっている。現在、文学・歴史学・言語・人類学などおよそ36人の専門家が所属している。センター所長のロバート・ヒューイ教授(日本中世文学)からは同センターにおける日本研究の概要について聞き取りを行った。また、同センターに属する社会学部のパトリシア・スタインホフ教授からは、現在進行中のアメリカ・カナダ国内の日本研究者の悉皆調査とカタログ作成事業について聞き取りを行い、アメリカにおける日本研究の現状について見取り図を得た。その他、歴史言語学・人類学の専門家から聞き取りを行った。

以上、必ずしも第二次世界大戦前に限定されたものではないが、英語圏の日本研究について当初の計画以上に幅広い調査を行うことができ、今後の研究の基礎を築き得たと考えている。

(3) 今後の研究展望

今回の派遣によって収集した資料・文献の整理が目下の課題である。本調査の特徴の一つは、第二次世界大戦前の草創期の日本研究に焦点を当てたことであるが、朝河貫一の日本封建制研究を切り口として、英語圏の日本史・日本法史研究の特徴やそれをめぐる国際的な学術交流の様相を検討する予定である。それを踏まえて、日本国内の日本史(自国史)研究と海外での日本史研究との比較を行い、今後の学術交流のあり方についても考えたい。また、今後は別の日本研究の拠点を訪れて情報収集・意見交換を図るとともに、アクセスの機会があれば「宝玲文庫」のような在外日本関係資料に含まれる歴史史料の調査も行いたいと考えている。まとまった成果としては、まずは現在準備中の近代史学史に関する論文などに反映させる予定である。